

第81回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：令和5年02月17日（金）16時30分～18時30分

会場：オンライン開催（zoom）

テーマ：「次世代の災害科学を担う学生たち」

16:30～16:35 司会・進行より Web 開催上の留意点の説明と趣旨説明

16:35～17:00 報告（各発表 15 分，質疑 10 分）

感染症災害へ立ち向かうウイルス創薬」

話題提供者：鈴木 聡志（医学系研究科 博士3年（災害感染症学分野））

これまで人類は大きな感染症災害をいくつも経験してきた。古くは天然痘やペスト、近年ではスペイン風邪や新型コロナウイルスの大流行が挙げられる。人類は感染症に対して感染対策、ワクチン、治療薬を使い対応してきており、実際に天然痘の撲滅に成功した。本研究室では、ハイリスク感染症に対する治療薬開発を行っている。本発表では、乳幼児で重症肺炎の原因となるRSウイルスに対する治療薬開発について紹介する。

17:00～17:25 報告（各発表 15 分，質疑 10 分）

Densho-Adapt: Developing a transdisciplinary participatory workshop model to map rice farming communities' processes to adapt to climate change related risks in Tadami UNESCO Biosphere Reserve

話題提供者：Paola Fontanella Pisa（環境科学研究科 博士1年）

There is growing awareness that local knowledge embeddedness in disaster risk reduction and climate risk adaptation processes is critical for the achievement of community resilience to climate related risks (Hadlos et al. 2022). Nevertheless, great uncertainties still remain concerning the methods of investigation and inclusion of local knowledge as a tool to understand and advise climate risk adaptation processes (Trogrlić et al. 2021). Contributing to filling this gap, this presentation introduces to the background and methods of the award-winning project proposal of the 2022 RENKEI Fellowship Programme. This research contribution investigates the link between local knowledge of a rice farming community in Japan's Fukushima prefecture, and their adopted disaster risk reduction and land management practices, inquiring on their significance in face of rising climate change related risks. This foresees the adoption of transdisciplinary approaches involving the rice farming community of Tadami UNESCO Biosphere Reserve.

17:25～17:50 報告（各発表 15分，質疑 10分）

東日本大震災復興市街地における人口増減の比較分析と居住環境評価

話題提供者：加藤 春奈（工学研究科 博士1年（国際防災戦略研究分野））

東日本大震災後、「より良い復興（Build Back Better）」の考えのもと、被災市街地の再建が行われた。被災から 10 年以上が経過した各新市街地において、どの程度人口が回復し、その居住環境は震災前に比べ向上していると言えるのだろうか。本研究では①岩手・宮城・福島県の被災 35 地区を対象とした人口回復状況の比較分析、②宮城県名取市閑上地区を対象とした居住者視点による震災前後の居住環境評価の分析を行い、その結果について発表する。

17:50～18:15 報告（各発表 15分，質疑 10分）

衛星画像を用いた地震時における宅地地盤変動の検出

話題提供者：宮嶋 愛菜（理学研究科 修士1年（陸域地震学・火山学研究分野））

日本では、戦後の都市化に伴い、盛土や切土等の大規模な地形改変を伴う宅地造成が各地で行われてきた。こうした宅地開発は、地震や豪雨の際に、盛土部分で地すべり等が発生するリスクをもたらす。本研究では、そのような盛土の調査手法として、従来まであまり用いられてこなかった衛星画像による解析へ着目し、多数の宅地被害が発生した 2011 年東北地方太平洋沖地震時の仙台市の解析結果について発表する。

18:15～18:30 質疑／総合討論（15分）

18:30 閉会

司会・進行：野村 怜佳（災害評価・低減研究部門 計算安全工学研究分野）

内田 典子（地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門

定池 祐季（防災実践推進部門 防災教育実践学分野）